

CIO | VIEW

2018年12月

従来の景気循環からの乖離

金融市場が抱える懸念とは



物事の見方の問題

2019年、グローバルの国内総生産（GDP）及び米国企業収益の伸びは鈍化するでしょう。量的緩和から徐々に量的引き締めへと中央銀行の金融政策の方向性が変化しており、現実には、日米欧の中央銀行は市場への資金供給を絞り込もうとしています。一方で、政治リスクは根強く残り、さらに解決が難しくなっています。ポピュリスト的な政権は専門的意見よりも自分の直観で判断することがあり、政治の今後を占うことが難しくなっています。債券市場では不安心理が蔓延し、多くのリスクプレミアムが上昇しています。原油価格の急激な下落を受けて、プレッシャーに直面している市場のセグメントも存在しています。

こうした冴えない現状を踏まえますと、足元で弱気相場が続いている事もある程度うなずけます。一方で、まったく異なった見方も可能です。我々の現在の予測では、2019年も世界経済はなお3.5%以上拡大すると見ています。また、2020年についても景気後退局面を迎えるとは考えていません。企業収益は引き続き目を見張る伸びが継続し、特に米国においては約6%の伸びを予想しています。金融政策はわずかに引き締め方向に向かうものの、歴史的に見るとなお緩和的と言える状態が続くでしょう。投資家はタカのように米連邦準備制度理事会（FRB）の金利引き上げの動きを注視していますので、経済成長が鈍化した場合、FRBは強力な引き締めは控えることになるでしょう。政治リスクが高まっているとはいえ、それは政治家個人に起因するものが増えており、逆に言えば、こうした政策判断はすぐに転換することも可能です。特に実際に資本市場からのプレッシャーを受けた場合などは、意思決定が速まる可能性もあるということです。イタリアで起きていることが良い例かもしれません。また、原油価格の低下には負の側面を上回る恩恵があります。

このようなバラ色の見方にはかなり説得力がありますが、やや楽観的すぎる前提の上に立っているとも言えそうです。複数のリスクが同時期に高まることで市場が厳しいストレス状態に陥ることもあり得ます。市場のシグナルをあえて無視したり、状況の悪化を「投機筋」のせいにする政治家もいることでしょう。2019年はおそらくこの2つのシナリオの間に落ち着くことになるでしょう。我々は新年を迎えるにあたっては、目標リターンは一桁代中盤と慎重な見通しとしています。これは我々が慎重ながらも楽観的であるということです。我々は経済の循環はまだ終わっていないと考えています。



ステファン・クロイツカンフ
チーフ・インベストメント・オフィサー

"来年も経済は基本的に底堅いでしょう。いくつかの揺らぎはあるものの、それに耐えることで経済の底堅さが保たれるということです。"

当資料は、情報提供を目的としたものであり、特定の投資商品の推奨や投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は、信頼できる情報をもとにDWSインベストメントGmbHが作成したものをドイチェ・アセット・マネジメント株式会社が翻訳して提供しておりますが、正確性・完全性についてドイチェ・アセット・マネジメント株式会社が責任を負うものではありません。当資料記載の内容は将来の運用成果等を保証もしくは示唆するものではありません。当資料記載の予測は、2018年12月17日又は12月20日時点のDWSインベストメントGmbHの見解であり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。



マクロ経済

- 米国経済は引き続き堅調な勢いを維持する見通し。
- 米国以外の世界経済の見通しは、若干劣るものの暗い景況感とまではいかない。
- 最大のリスクは引き続き欧州の政治状況であり、ダウンスайдのリスクが高い。



オルタナティブ

- 世界の金融政策が引き続き相対的には緩和的であることから、投資家は今までとは異なる方向に向かっている。
- 興味深い例として、世界貿易の大半が依存しているコンテナのリースなどが挙げられる。
- より幅広い見地では、ファンダメンタルな市場調査を掘り下げること、意外な投資機会を見つけることができていると考えている。



株式

- 年末に見られた政治と市場の混乱によって、2019年の予測が複雑になった。
- 多くの懸念事項があるとはいえ、経済が安定しており、バリュエーションも良いことから、2019年に対して明るい見通しを保持している。



マルチアセット

- 昨年末の荒れた相場は市場の懸念を反映しており、今年に入っても払拭されないであろう。
- 見通しは引き続き明るい、ポートフォリオのアロケーションは悲観的な市場心理やダウンスайдリスクを考慮したものとなる。
- 2019年のスタートにあたり、十分に分散しつつ、様々な商品をヘッジし、選択的な機会を模索する。



債券

- 米国国債及び流動性住宅ローン担保証券は、特に米国イールドカーブチャートの短期年限では投資妙味があると見込まれる。
- 欧州国債は、特にユーロ圏のコア国について警戒している。
- 幅広い地域において社債にはリターンが望める。新興国には引き続き選択的な機会がある。



ESG(環境・社会・企業統治)

- 世界は新しいテクノロジーの時代に入った。
- この新時代は、今日の主要な環境問題や社会的課題の解決の糸口となる。
- もっともテクノロジーがもたらす変化は、セクターに創造的破壊をもたらす可能性がある。場合によっては、所得の不均衡を生み、社会的な結束を脅かすなど、国家全体にまで影響が及ぶことも。

為替

- 他の市場と比較すると、昨年末の為替市場は概ね静かであった。
- 新年も大きな変動はないと見ている。
- ユーロ・米ドル相場については、2019年の注目点は、「失望が少ないのはどちらの通貨か」という点。

従来の景気循環からの乖離

》「サイクルのどこにいるか」だけに注目すると、
既に起きている構造変化のサインを見逃すリスクがあります。《

2018年を通じて、金融市場の参加者は何度も不安に襲われることになりました。幅広いアセットクラスにおいて、年初来リターンは期待外れからさらに悪い結果となりました。この1年、年初には仮想通貨が下落し、2月には株式相場のボラティリティが急激に高まりました。10月はほとんどのリスク資産にとっては最悪の月となり、12月以降も極度の緊張が続いています。その間に、新興国については、政策の失敗や通商問題の深刻化、米国の金利上昇、米ドル高などに悩まされ、新興国株式は全般的に弱気相場に突入しました。

平静でいらなかったのは投資家だけではありません。有権者や市民も、再三にわたって平常心を保つことができませんでした。政権や議会、投票における混乱とは対照的に、経済指標は楽観的な見解を示唆していました。市場の雰囲気は、堅調に見える経済のファンダメンタルに安心し、一方では直近の通商問題やツイッター発言などの政治的なサプライズに不安になるなど、安心と不安の間を行ったり来たりしました。2019年を迎えるにあたり、ここで立ち止まってこの対比を理解することが重要でしょう。先行指標というものは所与の予測期間において次に起こりうる下降局面の可能性を評価するためのものです。金融市場の用語を使うと、常に問われるのは「サイクルのどこにいるか」という点です。「サイクル」という言葉について投資家は2つの明確で相互に関係した事柄を指します。1つ目は、米国などの主要国経済が景気後退にどれだけ近づいているかということ。2つ目は、株式やリスクの高い社債などのリスク資産の弱気相場を意味し、これは景気後退と同時に起こりやすいものです。

通常、リスク資産はサイクルの終焉がかなり近づくまで持ちこたえる傾向にあります。歴史的に見ても、最近の経済データからも、現在のサイクルはまだ続くと言えるでしょう。言い換えると、今の弱気の時期は後から振り返れば買いの好機だったと言える可能性があります。しかし、この見方にはダウンスайдリスクが多くあります。2016年以降について言えば、ダウンスайдリスクとは政治に関連したものでした。英国の欧州連合(EU)離脱をめぐる投票結果や米国のドナルド・トランプ大統領の選出を起点とし、投資家にとってはしばしば不意打ちとなる変則的な事象が頻繁に起き始め、2018年を通してこのトレンドが続きました。英国のEU離脱については最終的な結果を予測するのは以前も今も一貫して難しく、債務問題に直面するイタリアではEU懐疑派の2つの政党が3月の議会選挙の勝利をうけて連立政権を発足させ、財政規律をめぐってEUと対立が続いています。ブラジルやメキシコの選挙においてもポピュリストが勝利しました。

あまり注目されてはいないものの、主流派が強いとされるドイツやスウェーデンをはじめ多くの国において、伝統的な主流派の政党が思わしくない選挙結果に直面する事態が続いています。フランスではかつて政治の新顔と目されたエマニュエル・マクロン大統領が、時に暴徒化する長引く抗議デモに直面しています。米国中間選挙においては、トランプ米大統領の共和党が下院でいつも以上の敗北を喫しました。米国やその他の国々において投票率は軒並み高く、有権者の意識がいつもより高いことを示しています。

金融と政治の混乱を別にすると、世界経済は今のところ驚くほど安定しています。米国は予測より若干好調な一方、その他先進国の多くと中国はやや不調という状況です。世界全体としては、経済見通しは引き続き非常に好調です。しかし、長期にわたって市場が政治の影響を受け続けることはない、と結論付けるのは間違いでしょう。選挙というものは、結局は情報を集める手段であり、市場と同じような役割を果たします。2016年以降、有権者や市民はあらゆる国において「現状には満足できない」というメッセージを発信し続けてきたのです。

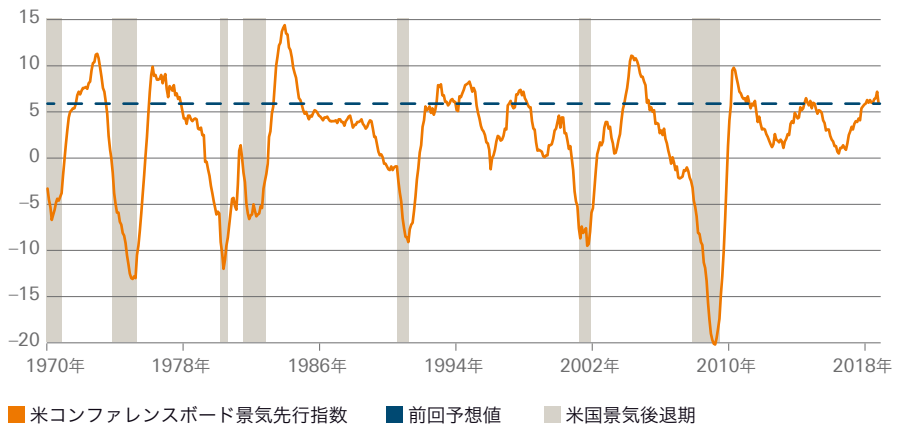
金融市場を支配する問い、「サイクルのどこにいるか」ということに立ち戻ってみましょう。少なくとも政治に関する限り、グローバル金融危機後に始まった古い政治サイクルは既に終焉を迎えています。危機時のドイツの宰相、アンゲラ・メルケル首相にちなんで「この道しかない」と言われる政治についてもしかりです。英国では、EU離脱の政治混乱に起因する副産物として、野党労働党による急進的な再配分の政策など、最近まで考えられなかったことが実現しかねない状況です。トランプ米大統領やマクロン仏大統領をはじめ、イタリアのポピュリスト政権なども含め、今まで部外者とされてきた政治家の手によって、旧来の政治体制に異なる選択肢が持ち込まれつつあります。政策の中には比較的市場寄り、考え抜かれたものもあるでしょう。しかし、政策の中身をいったん脇に置いてみると、これまでの政治手法が崩壊していくスピードには驚かされます。政策が失敗する余地は大幅に拡大しています。これは、「量的

緩和(QE)」という今でも馴染みの薄い手法から、今まで試されたこともない「量的引き締め」という手法に移行しようとしている金融政策についてだけではありません。投資家にとっては、標準的な経済の健全性評価が示すよりも状況はさらに不透明だということを意味します。2019年を通して金融市場と経済データの双方が悪化し始めないとしたら、それは驚きです。投資家は「サイクルのどこにいるか」について考えるのと同じぐらい、既に起きつつある構造的変化のサインに大いに注意を払うべきでしょう。

米国の先行指数はやや好調な見通しを示唆

米コンファレンスボードの景気先行指数は、複数の指標から構成されたもので、米国経済が引き続き非常に堅調であることを示唆しています。

前年同月比変動率(%)

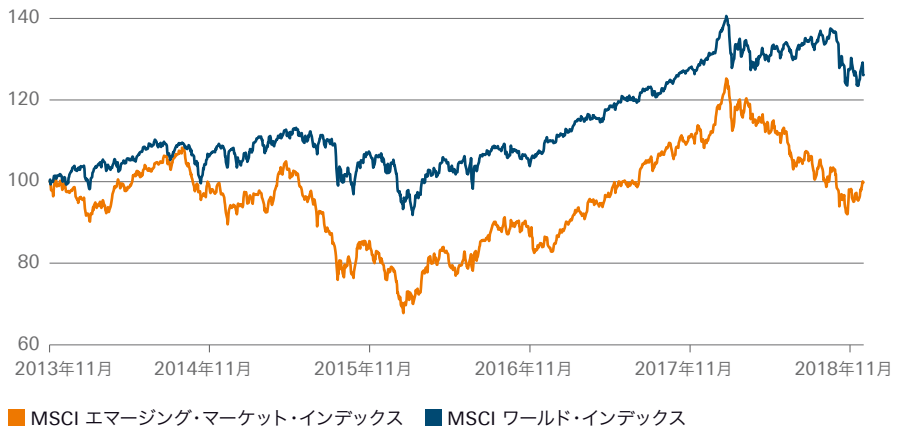


出所: ブルームバーグ・ファイナンスL.P.、DWSインベストメントGmbH、2018年11月30日時点

新興国株式にはまた厳しい年となった

2013年以降、新興国株式は比較的軟調でした。米国の利上げが米ドル高を招いたこともあり、2018年にはさらに悪化しました。

2013年11月5日を100として指数化

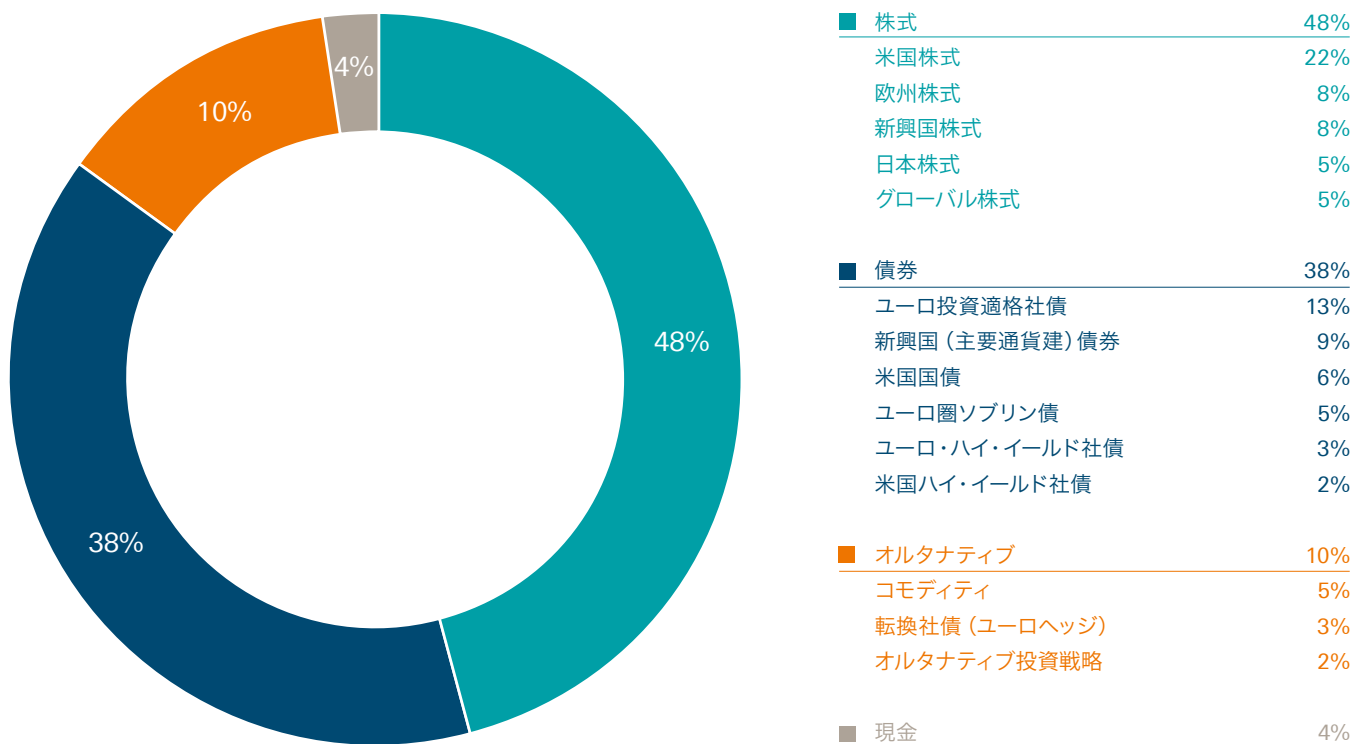


出所: ブルームバーグ・ファイナンスL.P.、DWSインベストメントGmbH、2018年12月5日時点

当資料は、情報提供を目的としたものであり、特定の投資商品の推奨や投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は、信頼できる情報をもとにDWSインベストメントGmbHが作成したものをドイツ・アセット・マネジメント株式会社が翻訳して提供しておりますが、正確性・完全性についてドイツ・アセット・マネジメント株式会社が責任を負うものではありません。当資料記載の内容は将来の運用成果等を保証もしくは示唆するものではありません。当資料記載の予測は、2018年12月17日時点のDWSインベストメントGmbHの見解であり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。

慎重に動向を見守る

》市場の混乱は投資家の不安を表したのですが、
同時に投資機会とも言えるでしょう。《



出所：マルチアセット・グループ、DWSインベストメントGmbH、2018年12月6日時点

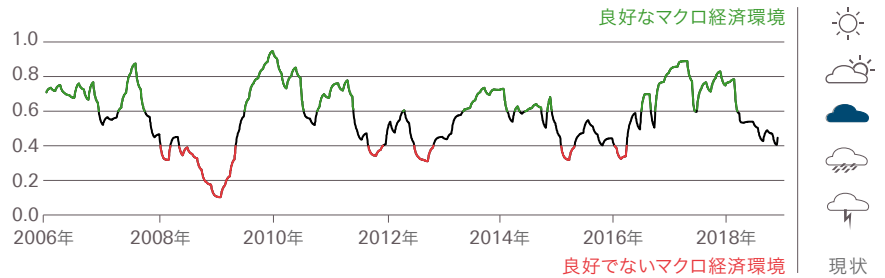
上記アセットアロケーションは、DWSが現時点で考えるユーロ建のバランス型ポートフォリオです。すべてのお客様に適しているものではありません。また、予告なく変更されることがあります。
オルタナティブ投資には様々なリスクが伴うため、すべてのお客様に適しているものではありません。また、すべてのポートフォリオに適しているものではありません。

冷たい雨模様

》DWSの各指標は雨が降り、肌寒い株式市場を示唆しています。《

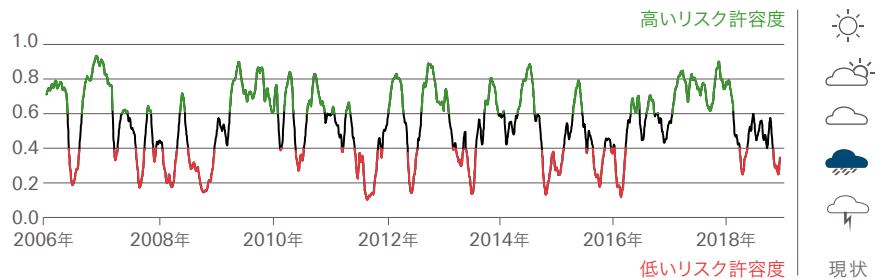
マクロ経済指標

マクロ経済指標は広範な経済指標を集約したものです。



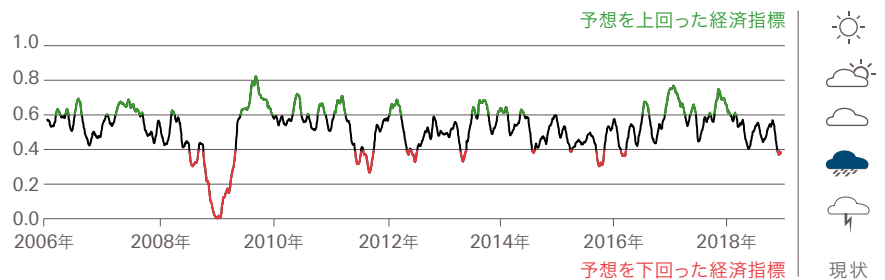
リスク指標

リスク指標は金融市場における投資家の足元のリスク許容度を反映したものです。



サプライズ指標

サプライズ指標は実際の経済指標と事前の市場予想を比べたものです。



出所: DWSインベストメントGmbH、2018年12月5日時点

当資料は、情報提供を目的としたものであり、特定の投資商品の推奨や投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は、信頼できる情報をもとにDWSインベストメントGmbHが作成したものをドイツ・アセット・マネジメント株式会社が翻訳して提供しておりますが、正確性・完全性についてドイツ・アセット・マネジメント株式会社が責任を負うものではありません。当資料記載の内容は将来の運用成果等を保証もしくは示唆するものではありません。当資料記載の予測は、2018年12月17日時点のDWSインベストメントGmbHの見解であり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。

マクロ経済 | 米国のモメンタムは引き続き堅調

GDP成長率(対前年比、単位：%)

地域	2018年(予測)	2019年(予測)
米国	3.1 ↘	2.4
ユーロ圏	1.9 ↘	1.6
英国	1.3 ↗	1.5
日本	1.0 ↘	0.8
中国	6.5 ↘	6.0
世界	3.7 ↘	3.6

財政赤字(対GDP比、単位：%)

地域	2018年(予測)	2019年(予測)
米国	3.9 ↗	4.7
ユーロ圏	1.0 ↘	0.8
英国	2.0 ↗	2.2
日本	4.0 ↘	3.3
中国	3.5 ↘	3.2

消費者物価指数(対前年比、単位：%)

地域	2018年(予測)	2019年(予測)
米国 ¹	2.0 ↗	2.1
ユーロ圏	1.8 →	1.8
英国	2.5 ↘	2.0
日本	0.9 ↗	1.1
中国	2.3 ↗	2.6

経常収支(対GDP比、単位：%)

地域	2018年(予測)	2019年(予測)
米国	-2.5 ↘	-2.9
ユーロ圏	3.0 ↘	2.9
英国	-3.8 ↗	-3.5
日本	3.7 ↗	3.8
中国	0.8 ↘	0.6

指標金利(単位：%)

地域	現在値*	2019年12月(予測)
米国	2.25-2.50 ↗	2.75-3.00
ユーロ圏	0.00 →	0.00
英国	0.75 ↗	1.00
日本	0.00 →	0.00
中国	4.35 →	4.35

商品市況(米ドル建)

	現在値*	2019年12月(予測)
原油(WTI)	47.2 ↗	60
金	1,243 →	1,275
銅(LME)	6,015 ↗	6,400

*出所：ブルームバーグ・ファイナンスL.P.、2018年12月19日時点

¹コアレート、12月個人消費支出(前年同月比)(%)

予測は2018年12月20日時点の見通しです。

WTI：ウェスト・テキサス・インターミディエート

LME：ロンドン金属取引所

当ページ以降の記号表記について

株価指数、為替相場及びオルタナティブ投資：

矢印は以下の見通しを示します。

(↗) 堅調な推移、(→) 横ばい傾向、(↘) 下落の可能性

債券：

ソブリン債の場合、矢印は以下の見通しを示します。

(↗) 利回り上昇、(→) 横ばい傾向、(↘) 利回り下落

社債や証券化商品等、新興国債券の場合、矢印は米国国債に対するスプレッド(利回り格差、オプション調整後)の見通しを示します。

(↗) 利回り格差の拡大、(→) 横ばい傾向、(↘) 利回り格差の縮小

矢印の色はロングオンリー戦略でのリターンの見通しを示しています。

↗ ↘ ロングオンリーの投資家にとってプラスリターンの可能性

→ プラスリターンの機会は限定的で、マイナスリターンの可能性もあり

↗ ↘ ロングオンリーの投資家にとってマイナスリターンの可能性

当資料は、情報提供を目的としたものであり、特定の投資商品の推奨や投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は、信頼できる情報をもとにDWSインベストメントGmbHが作成したものをドイチェ・アセット・マネジメント株式会社が翻訳して提供しておりますが、正確性・完全性についてドイチェ・アセット・マネジメント株式会社が責任を負うものではありません。当資料記載の内容は将来の運用成果等を保証もしくは示唆するものではありません。当資料記載の予測は、2018年12月20日時点のDWSインベストメントGmbHの見解であり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。

株式 | 引き続きボラティリティは高いものの、2018年ほどではない

	現在値*		2019年12月 (予測)				
			予測値	トータルリターン (予測) ¹	企業利益成長率 (予測)	株価収益率 への影響	配当利回り
米国(S&P500種株価指数)	2,507	↗	2,850	18.0%	5%	10%	2.4%
欧州(ストックス・ヨーロッパ600指数)	342	↗	360	11.0%	5%	2%	4.0%
ユーロ圏(ユーロ・ストックス50指数)	3,051	↗	3,150	9.2%	6%	-1%	4.2%
ドイツ(DAX指数) ²	10,766	↗	11,800	11.2%	5%	2%	3.6%
英国(FTSE100種指数)	6,766	↗	7,080	9.4%	5%	0%	4.9%
スイス(SMI指数)	8,540	↗	9,000	10.7%	7%	0%	3.7%
日本(MSCI ジャパン・インデックス)	933	↗	990	8.7%	5%	0%	2.6%
MSCI エマージング・マーケット・インデックス(米ドル建)	968	↗	1,050	11.5%	8%	0%	3.0%
MSCI AC アジア(除く日本)インデックス(米ドル建)	599	↗	650	11.5%	8%	1%	3.0%

*出所: ブルームバーグ・ファイナンスL.P.、ファクトセット・リサーチ・システムズ、2018年12月19日時点

¹トータルリターン(予測)は、利回り、配当、キャピタルゲインを含みます。

²トータルリターン・インデックス(配当込)

債券 | 米国国債2年物が非常に魅力的

米国

	現在値*		2019年12月(予測)
米国国債(10年物)	2.75%	↗	3.00%
米国地方債	86%	→	85%
米国投資適格社債	134 bp	↗	150 bp
米国ハイ・イールド社債	475 bp	→	480 bp
証券化商品: 米国住宅ローン担保証券 ¹	85 bp	↗	110 bp

欧州

	現在値*		2019年12月(予測)
ドイツ国債(10年物)	0.24%	↗	0.60%
英国国債(10年物)	1.27%	↗	1.75%
ユーロ投資適格社債 ²	169 bp	↘	150 bp
ユーロ・ハイ・イールド社債 ²	494 bp	↘	430 bp
証券化商品: カバードボンド ²	68 bp	↘	50 bp
イタリア国債(10年物) ²	253 bp	↗	350 bp

*出所: ブルームバーグ・ファイナンスL.P.、2018年12月19日時点

¹カレントクーポン債の米国国債(7年物)に対するスプレッド

²ドイツ国債に対するスプレッド

予測は2018年12月20日時点の見通しです。

bp=ベースポイント

アジア太平洋

	現在値*		2019年12月(予測)
日本国債(10年物)	0.04%	↗	0.20%
アジア社債	287 bp	→	285 bp

世界

	現在値*		2019年12月(予測)
新興国ソブリン債	401 bp	→	420 bp
新興国社債	358 bp	↗	390 bp

為替相場

	現在値*		2019年12月(予測)
ユーロ(対 米ドル)	1.14	→	1.15
米ドル(対 日本円)	112.5	→	115.0
ユーロ(対 英ポンド)	0.90	→	0.90
英ポンド(対 米ドル)	1.26	→	1.28
米ドル(対 中国元)	6.89	→	7.00

パフォーマンス | 概要

過去5年のパフォーマンス(12カ月間毎)

	2013年11月 -2014年11月	2014年11月 -2015年11月	2015年11月 -2016年11月	2016年11月 -2017年11月	2017年11月 -2018年11月
DAX指数	6.1%	14.0%	-6.5%	22.4%	-13.6%
ユーロ・ストックス50指数	5.3%	7.9%	-13.0%	17.0%	-11.1%
FTSE100種指数	1.1%	-5.5%	6.7%	8.0%	-4.7%
MSCI AC アジア(除く日本)インデックス	3.4%	-12.7%	4.6%	32.2%	-11.7%
MSCI エマージング・マーケット・インデックス	-1.3%	-19.0%	6.0%	29.9%	-11.2%
MSCI ジャパン・インデックス	11.9%	10.0%	-7.7%	19.9%	-6.4%
S&P500種株価指数	14.5%	0.6%	5.7%	20.4%	4.3%
ストックス・ヨーロッパ600指数	6.8%	11.0%	-11.3%	13.1%	-7.6%
SMI指数	10.7%	-1.7%	-12.4%	18.3%	-3.0%

	2013年11月 -2014年11月	2014年11月 -2015年11月	2015年11月 -2016年11月	2016年11月 -2017年11月	2017年11月 -2018年11月
アジア社債	8.6%	2.7%	5.7%	5.4%	-1.9%
新興国社債	7.1%	-0.2%	8.6%	8.6%	-2.4%
新興国ソブリン債	10.5%	0.2%	7.2%	10.9%	-4.8%
ユーロ・ハイ・イールド社債	6.5%	2.4%	5.8%	8.1%	-3.0%
ユーロ投資適格社債	7.3%	0.6%	3.2%	3.3%	-1.7%
ドイツ国債(10年物)	10.1%	3.2%	2.5%	0.4%	1.6%
イタリア国債(10年物)	18.3%	6.7%	-1.6%	5.0%	-7.3%
日本国債(10年物)	2.8%	1.8%	2.1%	0.3%	0.1%
証券化商品:カバードボンド	7.0%	1.4%	1.2%	1.0%	-0.3%
証券化商品:米国住宅ローン担保証券	5.4%	1.7%	1.6%	2.1%	-0.5%
米国ハイ・イールド社債	4.5%	-3.4%	12.1%	9.2%	0.4%
米国投資適格社債	7.2%	0.0%	4.2%	6.0%	-2.8%
米国国債(10年物)	6.7%	2.0%	0.6%	2.2%	-1.6%
英国国債(10年物)	8.9%	2.9%	5.2%	2.2%	2.0%

* 出所: ブルームバーグ・ファイナンスL.P.、2018年11月30日時点

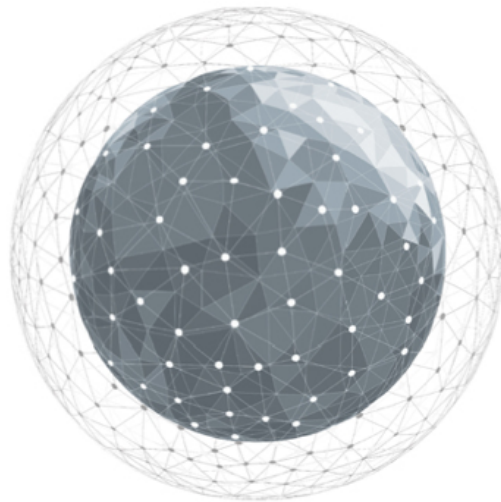
当資料は、情報提供を目的としたものであり、特定の投資商品の推奨や投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は、信頼できる情報をもとにDWSインベストメントGmbHが作成したものをドイチェ・アセット・マネジメント株式会社が翻訳して提供しておりますが、正確性・完全性についてドイチェ・アセット・マネジメント株式会社が責任を負うものではありません。当資料記載の内容は将来の運用成果等を保証もしくは示唆するものではありません。当資料記載の予測は、2018年12月17日時点のDWSインベストメントGmbHの見解であり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。

DWSについて¹

すべての主要な資産クラスを網羅した商品及び運用ソリューションを通じて、幅広い投資機会へのアクセスを投資家に提供。その運用ソリューションは投資信託から高度にカスタマイズされたポートフォリオの構築まで多岐にわたる

個人投資家及び機関投資家のお客様に、伝統的資産からオルタナティブに至る幅広い資産運用ソリューションを提供

約6,920億ユーロの運用資産残高(2018年9月末)を誇る世界有数の資産運用機関



チーフ・インベストメント・オフィスについて

DWSのグローバル・チーフ・インベストメント・オフィサーであるステファン・クロイツカンプが統括し、DWSの運用プロセスの中心的役割を果たす

経済及び市場に関する統一された見解の策定のため、グローバルな運用体制が有する専門性を集結

グローバル投資見通しであるCIOビューを策定する

ポートフォリオ・マネジメント、調査及び営業チームの連携のための窓口となり、円滑な意思疎通を可能にする

¹ DWSとは、DWSグループGmbH & Co. KGaA及びその子会社・関連会社の世界共通ブランドであり、DSWグループ会社の総称です。DWSの商品やサービスは、契約書、合意書、提案資料又は該当商品やサービスの関連書類に明記された法人よりお客様へ提供されます。

※2018年3月、ドイチェ・アセット・マネジメントは、欧州、特にドイツにおいて広く認知されている「DWS」を世界共通ブランドとして採用しました。

ご留意事項

当資料は、情報提供を目的としたものであり、特定の投資商品の推奨や投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は、信頼できる情報をもとにDWSインベストメントGmbHが作成し、2019年1月4日に発行したものをドイツ・アセット・マネジメント株式会社が一部抜粋し、翻訳して提供しておりますが、正確性・完全性についてドイツ・アセット・マネジメント株式会社が責任を負うものではありません。当資料記載の情報は、作成時点のものであり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。市場や経済に関するデータや過去の運用実績は記載時点のものであり、将来の傾向、数値等を保証もしくは示唆するものではありません。投資にはリスクが伴います。価格変動等により、当初投資元本を割り込むことがあります。

ドイツ・アセット・マネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第359号

加入協会:日本証券業協会、一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

ドイツ・アセット・マネジメント株式会社は、DWSグループの日本における拠点であり、投資信託ビジネス・公的年金・企業年金運用の長年にわたる経験、ノウハウ及び実績を有します。グローバルな運用体制と独自の洞察力を駆使した質の高いサービスをご提供するとともに、日本市場の資産運用ニーズに的確にお応えすることを目指します。

DWSは、約6,920億ユーロ¹の運用資産を有する世界有数の資産運用会社のひとつです。すべての主要な資産クラスを網羅した商品及び運用ソリューションを通じて、あらゆる投資機会へのアクセスを投資家に提供しています。

優れた商品、時代に則した運用ソリューション

DWSの運用ソリューションは投資信託から高度にカスタマイズされたポートフォリオの構築まで多岐にわたり、個人及び機関投資家のお客様に伝統的資産からオルタナティブに至る幅広い資産運用ソリューションを提供しています。

¹ 2018年9月末時点